

教育長	教育部長	課長	指導主事	課長補佐	主査	係	保存区分
							永・10 5・1

平成29年度第1回大口町総合教育会議

平成30年 2月21日

午後 3時30分 開 議

大口町役場3階 第5委員会室

1 開 会

2 町長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

教育を取り巻く現状について

5 その他

6 閉 会

構成員

町 長	鈴木 雅 博	教 育 長	長 屋 孝 成
教育長職務代理者	鈴 村 由布子	教 育 委 員	藤 田 金 生
教 育 委 員	丹 羽 茂 文	教 育 委 員	水 谷 恵 子

町長部局

総 務 部 長	社 本 寛	政 策 推 進 課 長	竹 本 均
政策推進課課長補佐	岩 田 雄 治		

教育委員会

生涯教育部長 平岡 寿弘

学校教育課長 倉知 千鶴

学校教育課主幹兼
指導主事 天野 拓夫

生涯学習課長 近藤 勝重

学校教育課課長補佐 兼 松 昌史

(午後 3時23分)

1. 開会

○竹本政策推進課長 では、定刻より少し早いですけど、始めさせていただきたいと思います。

ただいまより平成29年度第1回大口町総合教育会議を開催いたします。お手元の会議次第の協議事項に入る前に、進行を務めさせていただきます政策推進課の竹本です。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第1条の4第6項の規定により原則公開としております。会議の内容は、会議終了後、資料及び会議録とともに町ホームページにて公開をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、本日の傍聴人はございませんので、会議に入らせていただきます。

まずお手元にあります資料の確認をさせていただきますと思います。

まず表紙に次第、1ページはねていただきまして出席者名簿、その他資料1から3までであると思います。もしお手元がないようでしたらお配りをさせていただきますけど、よろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

2. 町長挨拶

○竹本政策推進課長 それでは、初めに、会議の主催者であります鈴木町長から挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

○鈴木町長 改めまして、皆さんこんにちは。

ちょっと定刻より早いわけですが、皆さんおそろいでありますので、会議を始めさせていただきます。

きょうは、教育委員の皆さん方には、お忙しい時間にお集まりいただきまして、大変ありがとうございました。こういう会議を持たなければならなくなったという現状につきましては、私よりも教育委員の皆さん方のほうがよく御存じだと思いますけれども、現実には子供たちを取り巻く教育環境というのが日々変わる中で、今後これから変わり行くであろう環境、そして今一番大きな問題になっておりますいじめの問題や学力の低下、そして国が今提案をされております授業時間の拡張というのか、延長というのか、英語教育とかいろんなものが入ってくる中で、どうしても今までのようにはいかない。ただ、我々の子供のころというのは、正直いいまして、土曜日は学校がありましたし、現実には子供たちにとって一番必要である夏休みを返上してまで平日に授業をやらなければならないのかとか、そういうことをこれから皆さん方と御相談を申し上げながら、今後の子供たちの教育という面に向けた形での方向性をとっていかな

ければならないということになりました。

十数年前に、いわゆるゆとり教育というのがはやった時代にでき上がった今の教育姿勢というのが、またそこで何となくひずみが出ているというのも事実でもありますし、学力が低下しているというのも事実であります。ただ、学校の中で、やはりできる子はできるという部分でありますし、1つは、学校の成績にかかわらず、いじめを受ける子供たちがいるという。昔、我々は先輩、後輩という中での教育の姿勢や、そして友達とのいろんな意味での共有の中で、いじめということは余りなかった。もちろんけんかはしょっちゅうありましたけれども、けんかしてしまえば終わったときには本当に仲のいい友達にまた戻っているというようなことがあった中で、心に傷を負うようなところまで追い込んでしまうという教育のあり方というのも何となく問題にもなってくると思いますので、そういう意味では、特に教育委員の皆さん方、そして教育長初め、我々と一緒のスタッフの皆さんと一回ゆっくりお話をいただきながら、今後の大口町の子供たちの教育のあり方というものを考えていかなければならない時期に来たというのも確かではあるというふうに私は自覚をしております。

今後、大口町からもそういうすばらしいいろんな人たちが出てくれることを期待する中でのこういう会議でありますので、今後の教育行政のあり方について皆さん方から御意見をいただき、変えられるものは変え、そしてまた子供たちにも教えながら理解を、また親御さんたちにも理解が得られるような、そういう虫のいい話かもしれませんけれども、本当にみんなが喜んで学校というものをもう一度考える場所をつくっていただけるような、そんな会議にさせていただければありがたいというふうに思っております。

ぜひそういう中でありますので、つつがない御意見を皆さん方から頂戴をしながらやってまいりたいと思っておりますので、きょうはちょっと長時間になるかもしれませんが、ぜひおつき合いをいただき、皆さん方から御意見を頂戴できますことを心よりお願い申し上げまして、御挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

3. 教育長挨拶

○竹本政策推進課長 ありがとうございます。

続きまして、教育委員会を代表して、長屋教育長から御挨拶をいただきたいと思えます。

○長屋教育長 改めまして、こんにちは。

鈴木町長におかれましては、3月議会を控えまして大変御多忙のところ、総合教育会議を開催していただきまして、まことにありがとうございます。また、教育委員の皆様方におかれましては、教育委員会の2月定例会に続きまして、総合教育会議に御出席をいただきまして、ありがとうございます。

さて、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制を構築する、首長との連携を強化する、こういう狙いで地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正がされて3年を経過したところであります。とりわけ危機管理体制の構築という面につきましては、相変わらずいじめによる重大な事案が全国的に発生していることは事実でありまして、これに対しても、本町では条例・規則を整備したり、いじめ問題対策協議会を開催し、これを機能させたり、いじめ防止に対する基本方針を策定したりしてきましたが、これらは起きてはならない重大案件に対する体制の整備ということで努力をしてきた結果であります。これも総合教育会議が開催されたということの波及効果であると思っております。

学校教育といいますか、生涯教育といいますか、教育につきましては、家庭教育、そして学校教育、そして生涯にわたる生涯教育と、生涯教育部、教育委員会の管轄範囲が大変広大であるわけですが、それぞれの領域において今日的課題は山積していると思っております。

本日は、本町の教育につきまして町長と協議を重ねる中で、それぞれの教育の今日的な課題解決に向けての糸口となればよいなど、そんなふうに願っているところであります。

長い時間とはれないかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

4. 協議事項

○竹本政策推進課長 ありがとうございます。

それでは、これから議長を運営規則の第3条、この会議の議事進行は町長が行うとなっておりますので、町長にお願いをしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○鈴木町長 それでは、私が議長ということでもありますので、私からお話をさせていただきたいと思うんですが、まず我々がわからない部分なんですが、教育を取り巻く現状についてということで、倉知学校教育課長から現状認識と、あなたが考える問題点がもしあるようであれば、その辺のところも踏まえて、親の目線というわけじゃないんだけど、そういうところからもちょっと話をしてくれるとありがたいかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○倉知学校教育課長 教育を取り巻く現状ということで、特に今いじめということ町長さんからおっしゃっていただきましたので説明をさせていただきます。

私から、教育の現状で3点ほど絞って御説明させていただこうと思っております。

その1点目がいじめということです。昨年の3月にいじめの防止対策推進法が国で改正をされておりまして、これに伴って愛知県も改正してきております。大口町、または大口町内の学校のいじめ防止基本方針も今見直しているところが法的な部分であります。先週の14日には、いじめ問題対策連絡協議会も開催しております。ありがたいことに本町では重大な事例はございませんけれども、資料に示しております資料の1、近隣、これは一宮市になっております。

重大な事例が発生しておりまして、教育委員会で第三者委員会による検証も行われました。また、訴訟というようなことにもなってきております。一宮市全体の問題となっているということです。

こうしたことも踏まえまして、専門的な意見をいただくために、いじめの対策委員会の委員を教育委員会のほうで設置していくことになっております。それで、弁護士でありますとかお医者様、あとは警察のOB、それから福祉職の各専門分野から1名ずつお願いを今しているところでございます。

最近では、学校内の人間関係だけではなくて、SNSといいますか、スマートフォンとかそういったものの中でのいじめもだんだん重大なものになってふえてきているところは感じております。これに対して何を学校教育課ができるか、教育委員会ができるかということですが、いじめを重大化させないためにも、学校の中により、専門的な知識を持った方が必要になってきているんじゃないかなというのは少し感じております。

いじめについては以上です。

もし3点続けて報告させていただいてもよろしいなら、報告させていただきます。どういたしましょう。

○鈴木町長 一個一個やってもあれなんで、みんな重なってくるんで、全部3点とも話してももらったほうが包括的にいろんな御意見が伺えるんじゃないかなと思うので、その部分でよろしくをお願いします。

○倉知学校教育課長 わかりました。

2点目です。

教職員の多忙化の解消ということで取り組んできております。国で働き方改革を取り上げられまして、教職員の仕事量の多さも取り上げられております。例えば、教員の仕事は児童・生徒への授業のほか、生活指導とか部活動、あと保護者の方への対応といった多岐にわたる仕事がございます。

愛知県では、教育の多忙化解消プランを作成されました。これをもとに大口町でも、昨年6月に大口町の教職員の多忙化解消に向けた計画を案として今持っております。今年度は夏休み期間中に夏季休業日を3日間設け、学校を完全に休校にいたしました。あと、教職員の在校時間の把握と各学校でも学校行事、そして会議などの見直しといった、試行錯誤ですが行っております。

こんな形で、教員の負担軽減には努めておりますけれども、新学習指導要領、冒頭の町長さんの御挨拶にもありましたように、小学校で道徳の時間が評価の対象になりますとか、英語が入ってきますとかいったことも出てきております。移行期間として確実に来年度から外国語は

小学校に入ってくる状況にもなっております。多忙化を解消しなくてはならないと言いながら、一方で授業時間数をふやすという相反することをやっていかなければならない状況でございますので、大口町だけではない、各自治体の方が頭を悩ませておる状況です。

資料の2番目として、そんな中で、静岡県の吉田町が夏休みを短縮して授業の日の時間数を変更し、時間数を短くし、そのかわりに夏休みを短くするというような方向に大きくかじを切られたということがニュースになっておりました。大きな決断をされたなと私も感じて、読ませていただいたところです。

多忙化解消は、こんな感じで御報告をさせていただきます。

最後、3点目です。

これは新生大口中学校の10年の振り返りになります。

平成20年に新生大口中学校が建設されまして、平成22年には北小学校を改修しております。平成24年には南小学校を新築で、この10年間で大口町内の学校の現場の環境が大きく変化をしております。施設的な面が大きいわけですが、時代はそれぐらい急速に変化をしているんですが、タブレットの導入といった新しい授業スタイルも取り入れてきております。文科省では、主体的・対話的で深い学びということも求められている状況の中で、中でも大口中学校については、学校規模が2つの学校が一緒になったということで大きくなり、授業スタイルも少し変わってきております。この大きな動きの10年という節目を迎えますので、学校教育課の中ではありますけれども、振り返りと今後について検討を始めてきております。それが資料の3番目になります。

トピックという形で5回の打ち合わせをしたり、著名な先生方のお話を聞いたりということをやっております。打合会は8回ほど行っておるわけですが、途中からは中学校の校長先生にも入っていただいております。授業スタイルが変わったというのは本当に大きなことだったと思うんですけど、改善すべき点を明確にするとともに、情報の再発信も必要なんじゃないかということも話し合ってきております。今後の10年に向けて、この10年を生かしていかなければいけないんじゃないかなと思っております。これについては、まだまだ報告ができるようなものにはなっておりませんので申しわけないんですけども、新生大口中学校の10年と今後の展望を考えるとということで資料を配付させていただきました。

皆さんの御意見もお聞かせ願えるとありがたいなと思います。

以上、大きく3点、報告をさせていただきました。

○鈴木町長 ありがとうございます。

教育委員の皆様方には、日ごろ、多分お考えのことだと思っておりますし、また心配をおかけしている一番大きな問題点ではないのかなとは思っておるんですが、きょうは一つ一つとい

うよりも、とりあえず今回は一番メインとしまして、いじめの関係について御意見を伺いたいと思っておりますけれども、今、学校教育課長のほうから皆さんにお話ししましたように、大きく分けて3つのポイントがあります。その3つのポイントを一つ一つ分けてということもなかなか難しいかもしれませんので、いろんな意味で多方面からいろんな御意見をいただければありがたいかなと思っている次第でありますので、とりあえずそれぞれの委員から御意見、今、学校教育というか、教育に関するいろんなお話の中で、それぞれが思ってみえることをちょっとお話しいただければありがたいのかなと。

いじめということだけじゃなくて、今出ている学校の教員の時間の問題だとか、それから子供たちの授業時間をどうするのかとか、いろんな話が皆さんの頭の中におありだと思いますので、一人一人御意見を、1テーマずつじゃなくて、大きく皆さんにお話をさせていただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

じゃあ、鈴木さんのほうから。

○鈴木教育長職務代理者 やはりいじめに関しても、教員の多忙化からやっぱり見落としてしまう部分があるのではないかなと思ひますので、正直、多忙化をどう解消したらいいかも町長にお願ひして、教員の数をふやしてくださいとか、職員の数をふやしてくださいというのが一番なのかなという簡単な意見ですけれども、そんなに簡単にいくことではもちろんないですね。

でも、私もやっておりますけれども、学校支援ボランティアとか、そういったものも活用しながら、少しでも先生の負担を軽減していくことで、先生が子供と見詰め合う時間がふえれば、いじめの早期発見ができるのではないかなと思ひます。

中学校が今、立派な中学校で、ちょっと子供たちにも聞いてみたんですけど、周りの子たちから、大中っていいねと言われたことあると言ったら、冷房・暖房があつて、あときれいだからいいねって。トイレもきれいなんだよねって。でも、そういう外見のな面でしか褒められていないので、これからはやっぱり、ちょうど教科ごとのいろんなラウンジがある、それに向けた、もちろん中学校はどこの中学校でも専門の先生が見えるので、それで専門の知識を身につけて、塾なんか行かなくてもいい大口町の中学校だよみたいな、違う面で自慢できるようになればいいんじゃないかなと思ひしております。以上です。

○鈴木町長 ありがとうございます。

多分我々も含め、委員の皆さんも含め、センター方式というのは、大学では確かにやりましたけど、本当に中学生の子供たちが迷っていく。そして中学校へ入れる親御さんたちにしてみると、本当に大丈夫なのかというところがすごく大きなポイントになっていることは事実です。

もう一つは、いじめというものに対して、なかなか見つけにくい部分というのがある。逆に言いますと、これは中学校を卒業した子供に聞いたんですけど、実際のことを言いますと、学

校から授業に出ずに抜け出せる時間もできるというようなこともちょっと聞いたこともありますし、簡単なんですよ。トイレに入っておって、トイレで時間が来たときに教室は入っちゃいけないですか。そうすると、担任じゃなくても同じ教室なら、先生がずうっとかわっていくんで、席があいていても、その子はきょう休んでいるんじゃないかと思ったりすると、割と抜け出せるというのはあるらしいです。という話も正直言っているのが事実らしいんですけど、そういう意味で、どこかで息抜きしているのかどうか分かりませんが、ただ、そういう意味で、余り表立って大口町っていじめの問題って出てこないんですが、実際には中にはあるというのは、後で教育長から話していただければいいんですけども、そういうところはあるみたいなんです。

ただ、我々にも全くわからない部分なので、どういう巧妙な手段を使っていじめをしているかというのにも全くわかりませんし、逆に言うなら、きょうまでいじめられていた子供が1人いたとして、いじめをしていたほうの子供がいきなり次の日からいじめの対象になるということもあるという話もちょっと聞きましたし、いろんな意味で、我々が学生のころ、子供のころとは全く違った形でいろんな問題が発生しているという中で、本当に我々がわからない部分というのがあのような気がしてならないと思っています。

それと、いわゆる教員をふやすということになりますと、教育長、学校の先生はふやせますか。

○長屋教育長 簡単にふやすことはできないと思います。

○鈴木町長 定員がある程度ある。

○長屋教育長 いや、まずは質の問題が出てくるのが1つありますし、それから金銭的な面ですよ。

○鈴木町長 そういうようなことも今後、だから、言っていたことに関しては、学校教育課のほうでいろいろと検討はしてまいりますけど、今言われるお金の面だとか質の面だとかという面の中で、どこまでやれるかということに関しましては、今後皆様方とも御相談をしながらやっていく必要があると思っていますので、ちょっと長い目で見ていただければありがたいのかなと思っています。

じゃあ、藤田さん、次、御意見をいただきたいと思っています。

○藤田教育委員 いろいろいじめとか多忙化の話が出ておりますが、確かに先生たちは忙しいし、今、指導要領が変わるところだから、本当に僕は大変だと思うんです。

僕は古いですから、昔の話を思い出すと、1週間は6日、土曜日まで入れて、小学校でも1週間の授業時数は33時間でした。全ての授業をこなすと33時間授業をしておったわけです。昔ですので、祝日が日曜日に重なっても、次の日がお休みになるということはなかったんですね。

重なったら、ことしは何時間時間数がもうかったと、そんなような感覚で子供と一緒に暮らしてきたんですね。今でいえばとんでもない超過勤務だったかもしれませんが、それでもやってきたんですわね。それは、あなたたちは調整手当がついておるからというようなことで、超過勤務も何もなかったですね。

今の状態ですと、1週間は土曜日がありませんので、6時間にしたら30時間しかない。そこへ英語を入れたり、「特別な教科 道徳」を入れてくるんですが。戦後、英語教育が中学校で始まったときはどうしておったのかな。中学校教科担任制でやってきたよね。小学校の先生、今、新しい教科が道徳とかそういうものを入れられたら、それに対応するだけの力をつけると勝負ができませんよね。経験豊富な先生ほど対応に追われておるでしょうし、また逆に新しい先生を、これは交代期ですね、先生の社会。交代期ですので、若い先生もたくさん見えますが、若い先生のほうは、今までの積み上げたものは余り持っていないし、年とった先生はこちらで追われるし、学校なんか、今かなり多忙化と出てくる言葉だけじゃなくて、こんなふうにごちゃごちゃしていないかなと心配するんですが。

何がしてほしいといたら、さっきの話じゃないけど、人です。人を何とか、若い人、ベテランの先生、両方にそれぞれ研修していただく目的は出てくると思いますが、そういうものが少しでもフォローできたらなと思っていますね。

今、僕の頭の中にあるのは、先生の研修をどれだけ手伝ってあげられるかということです。大口町の場合、中学校の支援がありまして随分やっておっていただくんですが、自治組織も来年から理事を入れてもらうというようなもので、だんだん広げておってもらえますけれども、非常に結構ですが、そういう人の力もどんどん入れていただいてやっていただいたらなと思います。そんなことをまず、今の忙しいということでは思うんですが。

いじめのほうのことですが、若い先生は、年齢が近いだけ子供の気持ちがある程度わかるかもしれませんが。しかし、忘れてもらっていないのは、自分が教師だということを忘れないでいただきたい。

子供を育てる者がいじめについてキャッチしたら、それに対応しなきゃいかんというのも法制化されたわけです。これは虐待が出てきたときと一緒にですね。子育てのときに虐待を発見したら、それを通知しなければいけないというのが出てきたと思うんですが、それと同じような手法で出てきておるわけですが、いじめの捉え方ですけども、いつもいじめられたとどんどん出てきて、これはいじめだと。初期の段階で、いじめるんだから、加害者があると思うんですが、そちらに対してどれだけの指導が強化されておるか。公安関係じゃないから罰を与えるとか、そういうこととは違いますけれども、その子に対するフォローをどういうふうにしておるか。指導の中でどうしておるかということにいつも、僕の疑問点がそこにあるんですが、当

然保護者がいますから、発見した時点で保護者を入れて、ある程度徹底的にやっておいて継続して見ていかないかんじゃないかと思いますが、個人情報とかそういうことで甘くなってる部分があるかなと思うんですが、子供の質も確かに変わってきておると思います。

この資料をいただいた場合、この子は、浅井南だと思いますが、自死の方向を選んだんですが、アメリカだったら銃の乱射かもしれませんね。銃社会じゃないから自死という方向に行ったんかもしれませんけど、子供はどんどん変わってくるんですが、小さいときから育ち方が変わっておるんですね。あちこちにコンビニができて、コンビニにはかわいいかごがあって、こんな小っちゃな子が何か持ってきて、レジでありがとうございますと言ってもらって、何かおかしい……。もっとも、そこに見える方も高校生だったり、最近では外国の人も多いみたいですが、大人が子供に対してありがとうございますとこうしてやる。子供がその中で育ってきておるんですね。そこを何とかするという家庭の力とか社会の力が弱くないかなあ。そこから辺のところから、子供がどんどん変わってこやせんかなと思うんですけども。

ちょっとまとまりがないんですけども、何といても先生の研修をふやしてほしいというのが僕の今の願いですね。人数とかでできないと。でも補助者という形である程度人を手助けしていく道はあるんじゃないかなと思っています。

それから、大口中学校は教科センター方式でずうっと来て、それだけじゃなくて、ブロック活動ですごく成果を上げてきているような気がしますが、成人式の様子なんかでもなかなかいいじゃないですか。町長さんの地域、地元を誇れるという挨拶が実に浸透していつておるような気がしますが、そういうスタンスで子供に当たっていけば、今10年史をやってみえると思うんですが、最初に中学校がぼーんとできました。ああいう教科センター方式、南小学校も低・中・高と分かれておって、組み方によっては異学年の教科センターみたいな、そういう形が目指せるような形ですね。北小学校もそういう使い方によってはできる。あと、西小学校を何とかそういうようなことで、ずうっと縦でやっていただければ、この中学校の教科センター方式もやりやすくなるのかな。いろんなところでいろんな子供が、いろんな人と友達同士で交流していくことは、絶対先々効果があると思っております。

○鈴木町長 ありがとうございます。

天野君、あなたは学校の先生をやっていたんやで、先輩の御意見を聞いて、今の現状をちょっと話してみたら。

○天野学校教育課主幹兼指導主事 今、藤田教育委員の先輩としての助言を聞きながら振り返ってましたら、過日、大口町地域協働フォーラムで、大口中学校卒業生、高校2年生の男子が、大口中学校で頑張ったことが今の高校生活で非常に役に立っているということを自分の言葉で堂々と地域の皆さんにお話をする姿がありました。それを見て、地域の皆さんもその生徒

に温かい声をかけていただきまして、本当に大口市は子供を多くの大人の人たちがたくさん見守ってくださっているなというのが1つ思います。

そういう中で、人間関係力というのが昨今弱くなってきているというふうに社会全体として言われていますが、そうした中で、大口市中学校だけではないんですけれども、異学年という交流の中で学校生活が進められていることについては、たくさんの大きな成果を生んでいるものと思っております。

○鈴木町長 ありがとうございます。

岩田君、よそから見ておって、あなたは大口じゃないだろう。子供はまだ中学生だろう。今の大口町の中学生と自分の子供と見比べてみてどうなのかというのをちょっと言ってくれと。

○岩田政策推進課課長補佐 私も教育委員会、生涯学習に長くいましたので、そのときと、今のうちの子供、私は小牧市ですので、そこをちょっと比較すると、いろんなところで当然違ってきます。

うちの子は3人いるんですけど、一番下は中学生なので、例えば部活動なんかだと、大口中学校は朝練はありますよね。小牧は朝練はないんですね。子供を見ていると、何か非常に余裕が、朝は確かに余裕なく出ていきますけど、何か生活に余裕があって、部活動も土・日はやりますけど、朝ないのは何か余裕があるのかなみたいに見えますし、それがいい悪いというのはわからないですけど、そんなのがあったりとか、あと小牧は外国の生徒が普通に教室の中にいて、保育園からもうずうっとそんなふうに育ってきているので、非常に外国の子供というか、外国の人とのつき合いが本当の日常の中にあって、それが親同士とかもそういうふうに外国の方とのつながりになっていてというようなところで、そういうのは地域性なのかなというところは思います。

あとは、センター方式というのは、ちょっとごめんなさい、私は大口町のセンター方式がどういうふうな形で行われているとかというのがよくわからないので、小牧は普通にクラスになっていますので、そういう差はよくわかりませんが、子供たちを見ていて、特別どう違うかなとかという感じは余りしないです。そんなところです。

○鈴木町長 あと、小牧は16万人のまちなので、大口は2万4,000人の町なんだけど、逆に言うなら、いじめに対して、あなたが自分が小牧市の住民として聞いているいじめを少しお話ししてもらえるとありがたいのかな。子供から聞いた話でいいけど。

○岩田政策推進課課長補佐 私も子供から聞くぐらいの話なので、小牧市がどんな状況になっているかというのはよくわかりませんが、やっぱりそれなりにいじめというのはあるような話は聞きます。

ただ、子供たちも受け流せる子と受け流せられない子で、例えば私の世代だと、学校に来な

い子がいるというのは非常に大問題というか、あの子来ていないわみたいだったんですけど、うちの子だけかもしれませんが、聞いていると、その子は来たり来なかったりだよとか、来ていないよとかいうのを普通に、特に問題視していないみたいに言うので、子供たちの中でも、不登校ということ自体も余り意識をしていなくて、そういうことがいじめになっているようには見えないのかなと思います。

○鈴木町長 逆に聞くけど、親がいじめだと思っていることが、子供たちにとっていじめじゃないということ。

○岩田政策推進課課長補佐 そういう部分も多分あると思います。

あと、スマホの関係は、なかなか親の知らないところでやっている部分が非常に多いので、そこはやっぱり難しいかな。子供から、言ってくれる子はよっぽどいいんですけど、こもってしまって、それだけでずうっと、子供たちだけでそれが、回っていると怖いという気はします。

○鈴木町長 ちなみに、あなたの子供はスマホは持っているの。

○岩田政策推進課課長補佐 うちの子は、中学生は持っていないんですけど、母親が使っていたタブレットを、一応はそれを使わせてはいます。なので、家でしか使えない状況で、それも親も見たりもするので、こもってやっているふうではないですけど、そんなふうです。

○鈴木町長 現状はそういうことだね。

○岩田政策推進課課長補佐 はい。

○鈴木町長 ありがとうございます。

ということで、丹羽さん、いかがでしょうか。我々の世代でいくと考えられん話なんですけど。

○丹羽教育委員 この資料をもらって、静岡県。私はそれを見てやられたなと思ったんですけど、夏休みとか冬休みの据え方が欧米と違って、日本の古来の風土だとか文化だとか宗教だとか、いろいろなものが根づいた状態で、それから生活レベル、だから、暑いから、こんなときに学校へ出てきても下敷きであおっているしか、集中できないから、もううちにいて、おじいちゃん、おばあちゃんの田舎でも遊んできたらいんじゃないのぐらいの夏休みのとり方や、冬は雪が多いから来るのが大変だから、冬休みを長くして、うちで自宅待機しておってちょうだいというようなところがあったのが、大口町のように、冷暖房が完備されて、そしていい環境の中であって、それと今度、女性が社会進出をして、当たり前のようにお父さん、お母さんが仕事にうちから出ていくと。

だから、ここにも書いてあって、子供に負担になるとか言う親もいるけど、果たしてそうかなど。要は、夏休みなんかは全部学校へ行ってくれば、働いているお父さん、お母さんはすごく安心で、普通の生活で、会社が長期休暇のときに一緒に休めばいいぐらいの感じだから、

これを行ったのは、大口町はそういう環境が昔からあるもんだから、夏休みなんかはお盆の前1週間ぐらいから始まって、8月で終わって、思い切って短くしてしまって、さっきも鈴木委員が言われたけれども、休みを短くすれば授業数が確保できるところが出てくるから、そうすると、教員もゆとりが出てくる。そして、生徒・児童の顔を一人一人見る余裕が出てくれば、いじめの早期発見だとか、全校によっての対策も打てるようになるし、それから藤田委員が言われた、もうちょっと教員に研修だとか、いろいろ勉強する場を設けさせたいと言われるんですけど、私みたいに普通の企業をやっている人間からいくと、研修なんかに行かせても、くその役にも立てん。研修なんか何遍行ったって、3万円だとか、2泊3日のどここの中小企業大学校に行って研修してくるって、帰ってきて、立派になった試しがないんです。お金がもったいない。

何が一番大事かという、オン・ザ・ジョブ・トレーニングなんですよ、OJTで。だから、学校でも余裕をつくって、夏休みを半分ぐらいにして、先生の余裕が、ベテランの先生は、校長が見ておれば、あいつはできる、なかなか優秀なやつだということがわかる。こいつはだめだということも上から見ていればわかる。そうすると、いい先生をこれにつけて、授業後、TTというのではだめなんですわ。要するに、できるスキルのある先生とスキルのどう見てもない先生とTTをやらせて、オン・ザ・ジョブ・トレーニングでスキルを上げていかないと。

だから、それも時間がないから、簡単に言うと、休みを短くして時間をいっぱいつくって、1日5時間ぐらいの授業にずうっとして、ベテランの先生が余裕をつくったら、オン・ザ・ジョブ・トレーニングで授業をそんなやり方、先生のプライドもあるかもわからないけれども、配慮しながら、オン・ザ・ジョブ・トレーニングをやって、先生も授業の中で育てていく。そういう先生との師弟関係を見ながら、子供たちもそういうのを勉強しながらブロック制が生きてくるというサイクルを回すためには、まず、今の夏休みは7月何日から8月終わりまで、冬休みはいつまでという既得権益みたいなやつを壊してぐっと短くして、吉田町みたいに思い切って短くして、先生たちの時間をつくったりして、こんな研修や先生の免許更新の時間がなくなるというけど、そんなとろくさいことを言っておったりとか、親が学校に行く日がふえれば、子供への負担が心配と。ということは、この親は学校へ行かせるということが子供の負担になっているということを大前提で話して、なるべくじゃあ、自分で困っておればいいんだよね、学校に行かせないようにして、小っちゃい子はテレビのトーマスでも見せておけば一日喜んでおるで困っておけばいいと、そういうことじゃなくて、それでは社会的な人間力や生きる力は養われないから、親も教育をせないかんし、先生たちも考え方を変えてもらわないかんし、やっぱり行政としても休みをごぼっと思い切って変えて、中日新聞の一面に載る、大口町がとんでもないことをやり出したというふうにやっていただきたいですね、私は。

○鈴木町長 さあ、長屋先生、ひとつここで一言言ってもらわんと、話が前へ進んでいかへんで。

○長屋教育長 何かいろいろと出てきたので、ちょっと整理しにくいんですけども、まずもって、鈴木委員のほうから、先生をふやしてということで、なかなか難しいということを行ったのは、正規の先生で、例えば国の基準に従って、県の基準に従って教職員は配置されているわけけれども、それ同等の先生を町で導入ということについて物すごく難しい。何でかといったら、採用しなければならない。それに当たっては試験をやらなければならない。その試験問題は誰がつくるのかとか、そういうことから考えていくと、小さな町で単独でそういうことをやっていくということは物すごく難しいということです。

けれども、先ほどお話があった多忙化のために支援の云々という面については、町独自でもやっていけることですので、これについては努力していく必要があるなというふうに思っております。

それから、教員の多忙感の中に、今、多忙化解消ということでは言っているんだけど、一生懸命やっている先生の中には、多忙感を全く感じない先生もいるということです。これは何でか、幾ら仕事を一生懸命やっておっても疲れない先生もいるということも事実です。これは、そのことが喜びだということなんです。本当は全部の先生が勤務時間の中で喜びを持ってやればいいわけけれども、なかなかそういうわけにはいかないし、先生の中にもベテランから若手まで、本当に力の差があることも事実であります。

そんな中で、今やらなければならないことは、学習指導要領に準じてこれを実現していくということではありますが、授業時数がふえていくことは事実であります。差し当たって、平成30年度と31年度については、32年度の新学習指導要領の全面実施に向けての移行期間でありますので、この移行期間の中でだけの授業時数を何とか確保していくということで、平成30年度からは、一つの方法として、儀式的行事の中で半日日程だったものを一日日程にして、その分が例えば3時間確保できるとしたら、これの4日分ということで、少なくとも三四、十二、四四、十六、これくらいの時間が確保されれば、平成30年度、31年度は時数的にはやっていけるんじゃないかなと。

そして、その後の全面実施に向けた32年度以降については、70時間ほどの増加ということから考えていくと、今、丹羽委員さんのほうから言われたような吉田町の例云々、吉田町のように画期的なことはできんかもしれんけれども、長期休業中のあり方について手をつけないとやっていけないだろうと思っています。

幸いにも大口町は、長期休業中に授業時数をふやすために授業日にしていくことは、ハード的な面では本当に恵まれているから、これは説得できることであるかな。

それから、保護者の考え方につきましても、丹羽委員さんが言われた女性の社会進出、児

童・生徒の日々の安全面、そういうことから考えたら、かなり納得をしていただけるような方向で進めるのではないかなと思っております。今後もこの件については、教育委員会の定例会等でも委員の皆さんの考えをお聞きしながら進めていかなければならないなど、そんなふうに
思っております。

○鈴木町長 ありがとうございます。

あくまでも親の立場の言葉でありましたので、ここでは、兼松君、親の立場で子供の意見を
教えてくれるとありがたいのかなと。

○兼松学校教育課課長補佐 ことし中学校3年生で、大口中学校で3年間お世話になってしまし
たが、うちの子供から中学校の話聞けば、自分のときとはやはり違う学校のスタイルもあり
ますので、聞くところでわからないこともあります。ただ、うちの子供については、今の大口
中学校でいろいろやっておる中で、非常に自分の子供には合っていたのかなと感じてはいます。
ここに見える皆さんに結構お世話になっているかと思いますが、非常に元気な子ですので、天
野先生にも学校に見えるときにはお世話になっていたと思います。

少しお話に出ていましたけど、ブロックということで、上の先輩たちにいろいろ面倒を見て
もらったこともありますし、ことし3年生になれば、うちはスポーツの関係で夏休みに学校に
行くことが少ないんですが、ことしは結構頑張って、最後、夏休みに行ったときには、体育祭
の練習なんかで下の子たちを割に指導しながら、1年生の子たちを引っ張ったような話もして
いました。そういった中で、横の学年も、西小学校、北小学校のお子さんともつき合いをしな
がら幅広くやっておりますけれども、縦の上下についてもいろいろ活動していて、遊びに行っ
たりということもさせてもらっているので、非常に合っていたんじゃないかなと思っています。

いじめなんかについては、いろいろお話がありましたが、岩田さんからも少しお話がありま
したように、子供たちは非常にクールだなと思うところがあります。岩田さんのお子さんと同
じように、学校に来ない子がいるよ。その子どうなのと言うと、いや、知らないとかわからな
いとか、そういったことは言うので、自分たちのときを思うと、クラスの子がいないという
ところに関しては、非常にクールだなと僕も感じることもありましたが。ただ、細かい学校の中
でいじめが起きているとかどうとかということは子供も余り言いませんのでわからないんです
けど、学校を3年間見てきた中では、うちの子供には結構合っていたんじゃないかなという感想
です。以上です。

○鈴木町長 ありがとうございます。

もう一人、社本部長、親の立場でしゃべってください。子供さんは学校の先生なんで、ぜひ
御発言を。

○社本総務部長 下の娘は、実は中学校が3年生で統合、教科センター方式になって、親から見

ていて、教科センター方式でなくて、統合したことによって混乱するようですよ。混乱するかなと言われていたんですけど、明らかに混乱したなと思っております。

受験を控えていまして、どう見ても勉強していないなと思ったんです。案の定、結果はそういう結果になりまして、本人に言ったのは、その後で少し教科センター方式のいい悪いの話が出たんですね。そのときの尺度は、公立高校に何人合格したかということでした。僕は滑りどめなんかそんなに受ける必要はないので私学に行けと言ったら、本当に私学になっちゃったんです。そういう中で彼女なりに、あのとき私はこうだったと反省し、勉強して、大学へ行って、上の娘が教員を目指していて、下の娘もじゃあ私もということで、同じ大学に実は行ったんです。今、上の娘は教員をやっている、婿も教員をやっている、下の娘は講師をやっている、どうも結婚する相手も教員なんです。

見ていて、家族が教員だからというわけじゃないんですけど、ちょっと教員の人たちに余りにも背負わせ過ぎているかなと、言葉では地域でとか言うんですけど、先生方も責任という重さで一生懸命やるがゆえに、なかなか地域を受け入れない。地域の方々も何をやっていいかわからないみたいところでまだまだ迷いがあるかなと、よく思います。

今、下の娘の同級生の子たちが職員でも入ってきていますけれども、親たちは、仕組みが変わることに対する抵抗感ってあると思うんですけど、子供たちがじゃあそれだけすごく抵抗感があるかということ、そうでもないんじゃないかなと思ってみたりします。今までどおりがいいという声はたくさんあるんですけど、じゃあ、今までどおりやっていたらどうなっていたかということ、それはなかなか実験ができないものですから、そういう意味では、先ほど丹羽委員が言われた、結果はわかりませんが、いけないいけないと言っているのではなくて、考えた上で、思い切ってこうやってみようぜということでやらないといけないのかなと。やはり変化に対して、それがいい結果が出るとみんな褒めたたえるんですけど、うまくいかないと、一気にそれがいけないということになってしまうので、そういう寛容さというんですかね。社会全体が何かあると誰かを攻撃する。寛容さが非常になくなってしまうのではないかと。教育長は前に恥の文化がなくなっているということを言われたんですけど、それもそうだけど、僕は寛容さがなくなっていると思う。今、町長のほうからそれぞれに求められているんですけど、いろんな意見が多分いっぱいあると思います。

そういう中で、答えは多分1つではなくて、皆が迷うんだと思います。僕が子供たちに言っていますのは、うちの子供は優秀じゃなかったんで、わからない気持ちを知っている教員なんで、わからないと思っている子供たちの気持ちも多少わかるはず。そういうスタンスで20年、30年先を目指してやれやと。今の子供たちが大人になったとき、僕は20年、30年後の社会を見ることができんかもしれんけど、それぐらいのスパンでやっぱり考えていけないといけないの

かなと思っていますので、先ほど教育長から予算の話がありました。研修の話もよくあるんですけれど、研修をする時間がないというんです。丹羽委員からも研修の是非の話もありましたけど、多分、自分も今、人事を担当していますけど、両方かなと。やっぱり指導というのと、外の空気に触れるということの両面で考えながら、長い目で、ふだん思ってやっています。行政側の人間として、そんなようなことも考えながらこれからも仕事をしていきたいなと思っていますところなんです。

○鈴木町長 ありがとうございます。

水谷委員、御意見をいただければありがたいかなと。

○水谷教育委員 先ほど天野先生のお話にありました大口町地域協働フォーラムで、現在、高校2年生の子がぜひ発表したいということで、立派に発表して、地域の方々からも称賛していただいたとのことで、その子にとってもよりこれからの自信につながったと思います。

大口中学校の強み、財産は何かという(3)番なんですけど、やはり先ほどから出ているブロック学年交流、教科センター方式ということで、ブロック学年交流は、兼松さんのお話にもあった先輩、後輩とのつながりで、生徒たちだけの縦の関係ではなくて、自分の学年の先生だけでなく、違う学年の先生からの目もあって、皆さんに生徒たちが見守ってもらえるという状況の中にあると思います。その中で、自分に合う先生に悩みなどを話せる、相談できる先生が見つけられるのではないのかなとも思います。それがいじめ防止などにつながっていくのではないかなと思ったりします。

それから、11月28日にありました長澤悟先生の教科センター方式の持つ可能性という講演会にも参加させていただいて、いろいろ教科センター方式についても勉強させていただきました。まだまだ大口中学校には教科センター方式の課題はあると思いますので、それを解決の方向に向かうように何とか皆さんで、先生方も忙しいんですが、知恵を絞って、例えば今もワークスペースが活用されていないというお話もあって、そこにそれぞれの教科に関するものを掲示したりして、それが学力アップにつながっていけばいいなと思ったりもしています。

今後、教科センター方式を取り入れている学校で成功している学校などへの視察の提案をさせていただいたりしているところなんです。

それから、これも先ほど町長、倉知課長からもお話がありましたが、2020年に新学習指導要領になります。重立って変わるところは英語の教科化、道徳の教科化、それからプログラミング的思考の育成で、アクティブ・ラーニングの主体的、対話的で深い学びで、今後ますますICT機器の活用の日常化というところにあると思います。

今後、高校入試や大学入試などでも主体的で対話的な深い学び方の力が問われる設問になる試験の改革が進められています。それを小学生や中学生のうちから力をつけていく必要があります。

ます。小・中学校の先生方は、時間の厳しい中でいろいろ研究をしていただいて、先生方も授業力というものをつけていってもらっていると思いますので、先生方の努力も信じたいと思っております。以上です。

○鈴木町長 ありがとうございます。

では、教育を担当しております部長から、包括的にちょっと御意見をいただけると。お願いします。

○平岡生涯教育部長 今、皆さんからお話を聞きました。教育というのは大変な場面かなと思っております。

今、自分の仕事とかぶってくるのは、先ほど藤田委員さんが言われた指導、年配者が若い人をどう育てていくか。私も今、役場で経験しておるんですけど、そういうところがちょっと行き詰まっておるのかなと。経験者が後輩を育てていくという視点が少し欠けておるのかなと感じます。

それは、それぞれが育ってきた中で、自分中心でやってきたというのが影響しておるのかと思うんですけど、そういうところを今の子供たちも見ておるのかなと。やはりそういうところを改善していく必要があるのかなと思っております。

言い方は失礼ですけど、教員というのは個人事業主であって、その中でやられておる。だから、授業の上手な先生も見えると思うんですけど、そういうノウハウをどう伝えていくかということがきちんとできていないのかなと。それは、先ほど丹羽委員が言われた学習をして、先輩がそのいいところを引き出して行ってやる、そういうのは必要なかなと思っております。

あと、いじめの関係でありますけれども、見方によって難しいところもあります。やはり被害者、加害者があり、両方とも児童・生徒であるということがあります。我々は、すぐ児童・生徒のところは目が行くんですけど、学級経営とかで苦慮されておる担任の先生というところも忘れてはいけません。どうしてもそこへ責任が集中しちゃうような形になるんですけど、やはり組織で動いておりますので、組織の中でそういう担任の先生にも目を配って救済をしていくようなことが必要だと考えます。

あと一点、いじめにおける対処方法として、どうしても大人の対応というんですか、保護者への説明は必要ですから、大切なことなんですけど、その対応が保護者へ向いちゃって、子供が蚊帳の外へ置かれちゃって、子供に寄り添う場面がないのかなと思ったりします。教員云々とかもありますけど、私どもとしては、そういう部分のところへ寄り添えるソーシャルワーカー、精神面のところをアフターできる人がおるといいのかなと思います。

どうしてもこういう事案が発生したときに、当事者である子供が蚊帳の外へ置かれちゃって、大人の論議でどうだあだという世界へどんどん引っ張っていっちゃっておるのかなと。やは

りそこに寄り添うものがないもんですから、だから、主役は誰なのかというと、やっぱり子供たちでしょうというのが置き去りにされているのかなと思ったりします。

いずれにしても、それぞれが1人ではやり切れないことですから、やはり組織としての中で対応していくことが必要なのかと。これは難しい話ですけど、若い人を育てていく、自分の持ったものを次の人に委ねていくことが必要と思っております。

○鈴木町長 ありがとうございます。

時間もそろそろということなんですが、今あと1年という話が出ていまして、この後3月で退職する人間があそこに1人おります。竹本君というんですが、彼は水泳の世界では有名な人だったんですよ。過去形ですよ。だったんです。そういう意味では、教育というものや先輩、後輩というものに対して、結構いろんなことを知っていると思いますので、こういう場面で少し皆さん方に、ほかと大口町と違ったいろんなものをお話ししていただけるとありがたいのかなと。

○竹本政策推進課長 おかげさまをもちまして、この3月で役場を卒業させていただきますけど、きょうの議論をいろいろ聞かせていただいていて何を一番思ったかということ、皆さんが教育に向いているような考え方を持っているということが大切なことじゃないかなと思います。

また、今の鈴木町長の近くの課にいさせていただき感じたことは、結局小さいものを見るんじゃないくて、やっぱりもっと先のことを見て、それに対して今何をしなきゃいけないかというような目線ですよ。

教科センターもブロックも、あの当時、導入されたときには、多分壮大な目標があったと思います。だけど、その中にはいろんな賛否があったと思います。だけど、じゃあそれをもとにして、大口町としてどうあるべきかということを考えると、やっぱり冒頭の町長の御挨拶でもありましたけど、10年たって、じゃあもう一回見てみようよという目線も大切だし、それをもとにして、じゃあこれを続けていこうよということも大切だし、あるいはここで変えようよということも大切だし、そこはいろんな話の中に寛容力というような話も出ていましたけど、こうだといって決めるんじゃないくて、いろんな角度から向き合うことが大切かなと思います。

本来の私の得意な水泳の話をここでちょっとさせていただきますけど、子供たちは、みんな生まれながらにして能力を持っているんです。ただ、その能力が、いわゆる人と比べたときにより強いかより弱いかというのは別問題なんです。その子がその能力をどれだけ発揮しているかが大切な問題なんです。そうすると、誰に何を言われようが、その子が自分の能力をどれだけ信じられるか。また、周りのみんながどれだけ信じてやれるか。それによって競技力というのは変わってくるんですよ。

平岡部長も言われていましたように、教育は、大人の目線の教育じゃなくて、子供の目線の

教育なんですということをやっぱり認識していただければありがたいかなということで、最後の御挨拶とさせていただきます。

○鈴木町長 ありがとうございます。

もうあと一人だけしゃべっていない人がいるでしょう。しゃべりたいでしょう。どうせなら、生涯学習というんだから、生まれてから死ぬまでの話のことをやっているんだから、その部分でぜひ御発言ください。

○近藤生涯学習課長 生涯学習としまして、先ほど出ました、まずいじめの問題について、生涯学習の観点からちょっとお話しさせていただきたいと思いますが、青少年問題協議会というのがありまして、町長さんが会長さんで、水谷さんも教育委員さんの代表で、例年7月に会議を実施しております。その後、翌月に巡回パトロールということで、各スーパー等でチラシ等を啓発しております。

その青少年問題協議会の中でも、愛知県の青少年問題協議会条例というのがありまして、その中でも、SNSのスマホのフィルタリングという言葉があるんですけど、ぱっと聞かれても何かなという言葉だと思うんですけど、結局18歳未満の青少年が有害のアプリとかアダルトサイトなんかを見る場合が往々としてあります。それを、携帯電話事業者と契約するときに、事業者のほうから保護者に対して、フィルタリングをされますかというような説明があるそうです。これは義務づけされておるとということなんですけど、その義務づけで保護者の判断でするかしないかを決めるそうなんです。そのような条例があります。そのような条例があるということで、うちも青少年問題協議会のほうからも今後順に周知しながら、フィルタリングサービスがあることと、サービスだけでは補えない部分については、あくまでも親の目が次のフィルタリングになることを十分承知おきしていただきたいという意味で、今後も広報等で周知していきたいと思います。

あともう一点、教員の多忙化についてお話がありました。生涯学習課の観点から申しますと、現在、地域型スポーツクラブとしまして、ウィル大口がいろいろ活動してくれております。そのウィルさんにも、先日、双方で話し合ったことがあるんですけど、その中でも、今、東京なんかでも大型のスポーツクラブが学校と契約してスポーツをフォローしておると。中学校の部活をフォローしておるといような話も最近事例としてあるそうです。

うちも大口町としまして、スポーツクラブのウィルさんをお願いして、今後、職員の多忙化の解消の一翼を担うことができるような検討をさらにこれからしていきたいなと考えております。その手法はいろいろあるかと思います。子供さんが町の施設、ウィルのほうへ出向いていくパターンもあるだろうし、ウィルのほうから派遣がてら学校のほうに来ていただくような手法もあるだろうし、そこら辺も全て含めながら、今後ウィルとも話し合いながら生涯学習課と

して考えていきたいと存じます。以上です。

○鈴木町長 ありがとうございます。

きょうは皆さん方の御意見をお伺いしましたし、職員の持っている経験、いろいろなものを皆さん方からお聞きをいただきました。

5. その他

○鈴木町長 委員の皆さん方でこれだけは言うておかないかんということがございましたら、ぜひ御発言いただければありがたいと思うんですが。

どうぞ、藤田委員。

○藤田教育委員 大口中学校の話が出ていますけど、大口中学校は、運動にしても何してもすばらしい子がいっぱい出ておるわけですね。例えば管内大会とか何とかも、いろいろ県大会とか全国大会なんかもありますけど、僕が知るの尾北ホームニュースなんですね。広報のほうにもっともっと載せてもらえないですか。大口中学校は宣伝が下手だもんで。もっともっとすばらしい中学校ですからね。

○鈴木町長 岩田君、広報のほうらしいけれども。

○岩田政策推進課課長補佐 管内の結果は、何月でしたっけ、一遍にどーんと載せますね。その後の活躍があれば、また個々に多分載せていなかったでしたか。

○竹本政策推進課長 というよりも、申しわけないんですけど、中学校の夏場の活躍したときに即載せてあげるとリアルタイムに御紹介できるんですけど、広報紙の編集の過程があって、いわゆる結果が出た後、2カ月後ぐらいにお知らせをしているのが現状で、ちょっとその辺がリアルタイムではお知らせができていない現状があります。だけど、一応活躍された生徒については、広報には載せさせていただいているというのが流れなんですけど、またその方式も含めて今後、どのタイミングでどういうふうにとこのを検討はしてみたいと思いますけど。

○藤田教育委員 中学校が身近にならんかなと。

○鈴木町長 最近ですけど、中学校の優秀な成績をおさめた子たちって、結構僕のところへ来てくれるんですよ。それを取材に来てくれている尾北ホームニュースがそれを載せてくれるという場面が結構多いんですよ。ところが今の話で、月1回しか出ん広報ですと、その間、寝てしまうということがあって、なかなか難しい部分もあるというところだけちょっと御認識いただけると、再認識していただけるとありがたいなと思います。

ただ、我々職員含めみんな、中学校でいい成績をおさめたり、高校でいい成績をおさめたり、大口の子は大口で育てるとこののがうちの教育長のモットーの方針でありますので、その子たちの応援に関してはできる限りやっといこうということをやっとうとを考えておりますので、その

点ではリアルタイムにはいかない部分もあるかもしれませんが、ぜひ御理解を賜りまして、何とか少しでもいい子を育てたいというのが、我々、多分ここにいるみんながそういうことを思ってやっておりますので、ぜひ御理解のほどをよろしくお願ひしたいと思っております。

時間のほうもありますのであれですけど、やっぱりこれから学校という一つの大きな問題も含め、きょう、皆さん方からいただいたいろんな御意見を一つ一つまとめ、そしてまた1つずつ対応策を考えながら、これからもやっていかなければならないということでもありますので、また今度はいつやるの。

○倉知学校教育課長 決めてはおりませんが、30年度にまた1回お願ひしたいと思ひます。

○鈴木町長 30年度ということでもあります。その間に多分、きょう全員が話をしてくれましたので、その観点から、今度のときは私のほうからまた突っ込んだ意見を求めるようにさせていただきます。

そして、結論をどこかで出さなければならないということでもありますので、その結論をどうするか、今の学校のセンター方式もそうですし、今のいじめもそうですし、教員をふやすふやさない、そしてまた、これから学校にかかってくるいろんな問題に関しても、結論としてどうなのかということを出していく必要性というのが、我々、そして教育委員の皆さん方にもあるんじゃないかなというふうに思っておりますので、今後ともいろんな意味で御協力を賜りましたらありがたいと思っておりますので、ぜひこれからもいろんな意味で中学校、小学校、またもっと言うなら高校の子供たち、成人式を迎えるまで、我々として根を枯らすことなくみんなで育てていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

じゃあ、最後になりますけど、教育長のほうから包括的な御意見がありましたら、御挨拶を兼ねて。

○長屋教育長 それでは、1時間ほどというのが1時間半ぐらいということで、ちょっと長くなりましたけれども、本当に長時間ありがとうございました。

一番は、私たち、何かあったことをもう既に隠す時代ではないというふうに思っておりますので、いいことも悪いことも情報としては共有をしていきたいなと思っております。その中で先般学んだことは、何か事があったときには莫大な労力をとられると。それよしか、それを未然に防ぐためのことに力を入れて、ゆとりを持ちたいと思っているわけでもあります。

きょう、今、町長のお話のまとめにありましたけれども、いただいた御意見をまたさまざまな角度から今後とも検討していきたいと思っております。

きょうは、本当に1時から長時間にわたりましてありがとうございました。

町長、どうもありがとうございました。

○鈴木町長 ということでお返しします。

6. 閉会

○竹本政策推進課長 どうもありがとうございました。

本日はこれで終了とさせていただきます。委員の皆様、定例会の後、引き続いて長時間にわたり御苦勞さまでございました。

以上で、第1回の大口町総合教育会議を閉じさせていただきます。本日はどうも御苦勞さまでした。

(午後 4時49分)